

【中学校音楽】

題材の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

		評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A表現 <small>(第1学年の例)</small>	・[事項イの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]について理解している。 【知識】 ・[事項ウの(ア)又は(イ)のいずれか又は両方]を身に付け、歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」)で表している。 【技能】	[音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素]を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うか(※器楽分野の場合は「演奏するか」、創作分野の場合は「音楽をつくるか」)について思いや意図を持っている。		[その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心をもちたい事柄]に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱(※器楽分野の場合は「器楽」、創作分野の場合は「創作」、鑑賞領域の場合は「鑑賞」)の学習活動に取り組もうとしている。
	B鑑賞 <small>(第2・3学年の例)</small>	[事項イの(ア)、(イ)、(ウ)のうち一つ以上]について理解している。 【知識】 (「技能」に関する評価規準は設定しない。)	[音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などのうち、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素]を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、[事項アの(ア)、(イ)、(ウ)のうち一つ以上]について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	

はばたく群馬の指導プランⅡ 題材のつくり方「A表現」と「B鑑賞」の関連を図った題材を例に

過程と基本的な学習活動

1 題材の課題を把握する。

- ◇音や音楽と出会う。
- ◇出会った音や音楽について、その雰囲気と音楽を形づくっている要素とを結び付けて聴き取る。
- ◇聴き取ったことを基に、どのような音楽表現にしたいかについてイメージをもつ。
- ◇題材の課題をつかむ。

【題材の課題】
〈題材で取り組む大まかな音楽表現〉

- ◇題材の課題解決に向けての大まかな見通しをもつ。
- ◇音や音楽の雰囲気を醸し出す理由を、音楽を形づくっている要素等に着目して探る。

2 音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら表現を探る。

単位時間
【めあてをつかむ】
 ◇表したい思いや意図をもつ。
繰り返す **更新する**
 ◇音楽を形づくっている要素を手がかりに、表現を試しながら工夫する。
更新する

◇表現の高まりを共有・共感し、その後の表現に生かす。
【まとめ・振り返りをする】

単位時間
 単位時間
 単位時間

3 発表等を通して表現の高まりを実感し、題材の学びを振り返る

- ◇グループごとの発表や、全体でまとめの演奏等を行う。
- ◇題材の学びを振り返る。

【まとめ】
題材全体の振り返り

〈例〉 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知】 B鑑賞	【思判表】 B鑑賞	【主体態】 B鑑賞
単位時間		
各単位時間で重点を置く評価の観点とは、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
【知技】 A表現	【思判表】 A表現	【主体態】 A表現
※単位時間の中で、全ての観点について評価するというものではありません。		
単位時間		
単位時間		
単位時間		
【知技】 A表現		【主体態】 題材全体

指導と評価の計画の作成に当たっては、はばたくⅡで示した、各活動を有機的かつ効果的に関連させることによって教科及び学年の目標を実現していくように、内容の構成や主題の設定、適切な教材の選択と配列などに配慮します。

「指導に生かす評価」
(学習状況を継続的に見取る)
 全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」
(評価したことを記録に残す)
= 記

・指導計画や授業の展開において、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を精選し、適切に位置付けます。
 ・音楽科の「主体的に取り組む態度」は、粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりしているかどうかについて、継続的に見取るようにし、題材の最後に記録に残すことが多くなります。